

原理主義がなぜ生まれるか？ : 宗教行動のモデル



火曜、4限
2011/10/11

社会心理学演習Ⅱ
高木英至

背景

- ▶ 世俗化(非宗教化)の中でカルト宗教が流行する
- ▶ グローバル化の中で原理主義が登場する
- ▶ カルト、原理主義
 - ▶ 任意加入の団体(国などの行政的な団体とは違う)
 - ▶ 他の社会の基準からの乖離
 - ▶ 他の社会としばしば敵対(攻撃)
- ▶ 全体の流れに反してカルト、原理主義がなぜ生まれるか？ なぜ敵対的になるか？

集団のメカニズム

- ▶ 均質な考えの人々が集団を形成した場合:
 - ▶ おかしなことをしても不思議ではない(社会心理学の議論)
 - ▶ 判断の極端化(集団極性化、group polarization)
 - ▶ 現実を検証しない判断(集団思考、groupthink)
- ▶ しかしなぜ、そのような集団が頻繁に出現するのか？
- ▶ 以下、カルト宗教に関する議論

宗教とは何か？(社会学テキストから)

- ▶ 信念
 - ▶ 霊魂、祖先の霊、神、霊力
 - ▶ 聖／俗
 - ▶ トーテム: 集団自身
 - ▶ 死生観、善悪の基準
- ▶ 行い
 - ▶ 宗教儀礼
 - ▶ 非宗教的活動
- ▶ 宗教共同体
 - ▶ 道徳の共同体
 - ▶ 組織、訓練機関



カルト宗教

▶ Cults (Stark & Bainbridge)

- ▶ Audience cults
 - ▶ メンバーはカルトのドクトリンに接するだけ
- ▶ Clients cults
 - ▶ リーダーが特別の活動をする、専門スタッフ
 - ▶ サイエントロジー (Scientology)
- ▶ Cult movements
 - ▶ オウム真理教
 - ▶ 統一教会

▶ より一般的には、Church vs Sect の区分



2種類の宗教団体: Church と Sect

	Church	Sect
規模	大	小
他の宗教団体との関係	寛容	非寛容
富	広範	制約
信者の参加	限定的、知性の強調	全面的参加、感情の強調
僧職者	専門的	非専門的
教養	寛容、現世の強調	非寛容、来世の強調
成員性	生得的、広範	改宗、排他的な道徳的集団
社会階層	中産階級	下層階級
世俗界への態度	現状肯定	現状否定、厳格な教義主義



さらに区分すると...

	社会との 正の関係	社会との 負の関係
唯一の正統性を主張	Church	Sect
多元的正当性を容認	Denomination	Cult

ここでは Church と Sect だけの区分で考える。



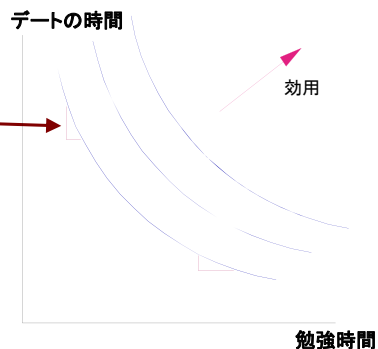
取り上げるモデル

- ▶ Iannaccone, L. (1988) A formal model church and sect. *American Journal of Sociology (Supplement)*, 94, S241-268.
- ▶ Church と Sect のフォーマル・モデル
- ▶ 経済学の比較静学モデルの応用



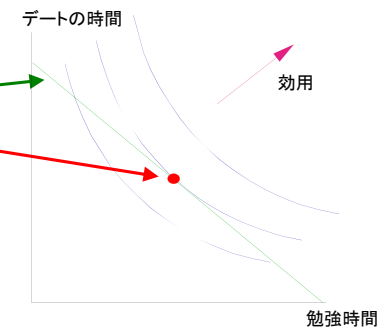
無差別曲線(indifference curve)

- ▶ 無差別曲線＝効用(満足度)が同じ水準の点の集まり
- ▶ 限界代替率
- ▶ 無差別曲線は左下に凸
- ▶ 右上にある無差別曲線ほど効用水準が高い(より満足)



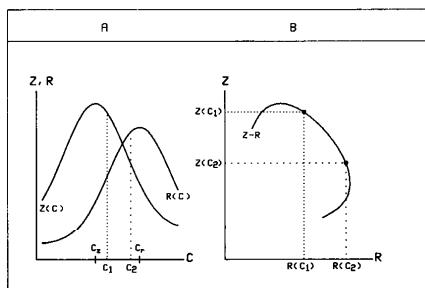
▶ 9

- ▶ 予算制約
- ▶ 最適な選択
- ▶ 今は「2財」の場合を考える
- ▶ n 財であっても原理は同じ



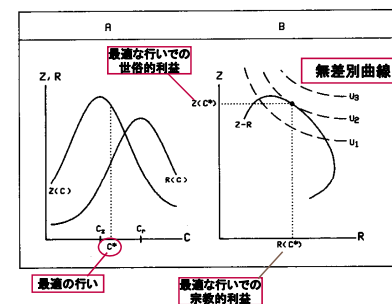
Iannaccone のモデルの前提

- ▶ 人は宗教的利益と世俗的利益を求めている。
 - ▶ R : 宗教的利益
 - ▶ Z : 世俗的利益
- ▶ R と Z は当人の行い(C)に依存する。
 - ▶ $R = R(C)$
 - ▶ $Z = Z(C)$
- ▶ R と Z は最大値を持つ。
 - ▶ C_r : R を最大化する行い
 - ▶ C_z : Z を最大化する行い
- ▶ R と Z は下方にも有界
- ▶ 個人は最適な行い C^* を選ぶ。
 - ▶ 効用関数 U を最大化する $C = C^*$ を選ぶ。



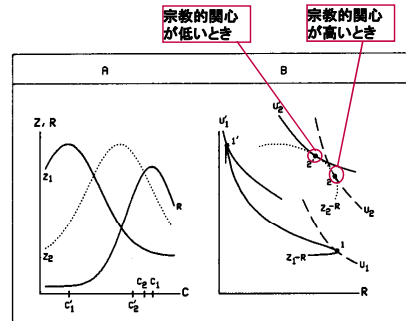
Iannaccone のモデル

- ▶ 最適な行い C^*
 - ▶ 自己の効用 U を最大化する C
- ▶ 効用は U_2 のとき最大になる



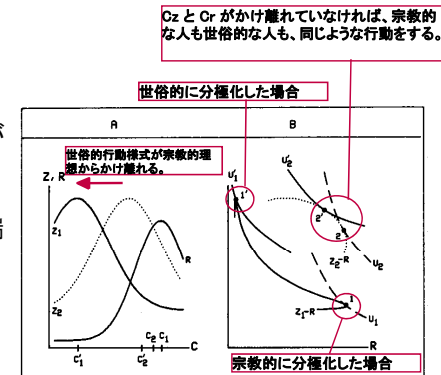
モデルの予測 1

- ▶ 関心の比重の変化は行いの変化をもたらす。
- ▶ 宗教への関心が世俗的感心に比べて高まると、宗教的利益がより高い行いになる。



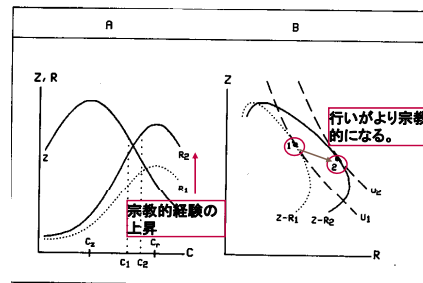
モデルの予測 2

- ▶ 世俗化は宗教的関与の分極化をもたらす。
- ▶ 世俗化: Cz と Cr がかけ離れること。
- ▶ 分極化: 極端に世俗的になるか極端に宗教的になる。



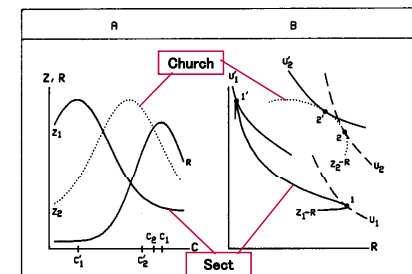
モデルの予測 3

- ▶ 宗教的寛容度の低下も同様の分極化をもたらす。
- ▶ 寛容度の低下は、Cz と Cr がかけ離れるのと同じ効果をもたらす。
- ▶ 宗教的経験の上昇により、行いはより宗教的になる。



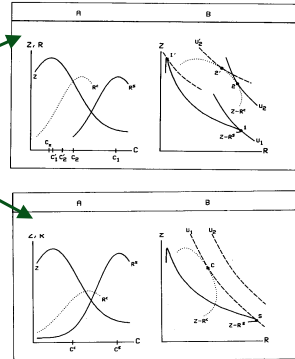
Church と Sect (1)

- ▶ 行いの相違
 - ▶ Church: 成員は church の規範(Cr)と Cz の中間の行いをする。
 - ▶ Sect: 極端に宗教的になる(狂信者)が Cz に近づく(対立)。
- ▶ Sect 成員の均質性
 - ▶ 全員が極端に宗教的
 - ▶ 周囲との緊張が低下しない。



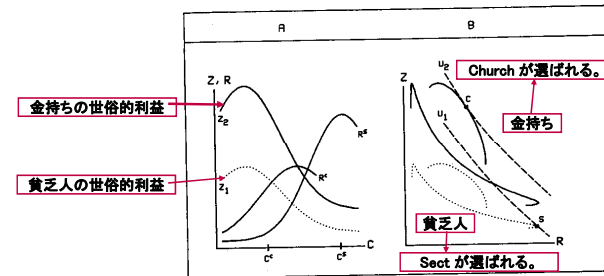
Church と Sect (2)

- ▶ Sect の R と Church の R の大きさが同じなら、人は Church を選ぶ。Sect は選ばない。
- ▶ Sect の R が Church の R より大きい場合だけ、人は Sect を選ぶことがある。
- ▶ Sect は広範な報酬を提供しなければ存在できない。
 - ▶ 例: 人格的接触、細かな世話
 - ▶ 高い参加水準、高額な寄付が Sect には必要



Church と Sect (3)

- ▶ 世俗的機會がない者にとって Sect は魅力的



モデルの予測のまとめ

- ▶ モデルの直接的な帰結(予測)
 - ▶ 宗教への関心が世俗的感心に比べて高まると、宗教的利益がより高い行いになる
 - ▶ 世俗化は宗教的関与の分極化をもたらす(極端に世俗的になるか極端に宗教的になる)
 - ▶ 宗教的寛容度の低下も同様の分極化をもたらす
- ▶ モデルの含意: ChurchとSect
 - ▶ Church: 成員は church の規範(Cr)と Cz の中間の行い
 - ▶ Sect 成員は均質性、全員が極端に宗教的
 - ▶ 周囲との緊張が低下しない。
 - ▶ Sect は広範な報酬を提供しなければ存在できない
 - ▶ 世俗的機會がない者にとって Sect は魅力的

それでは、

今日はおしまい

